

次の文章には、子どもの頃から徐々に視力が弱くなり、中途失明にいたった木下さんの経験が紹介されています。下線部にあるように、どうして友達と友達の関係が「善意が壁になって成立しなく」なってしまったのでしょうか？ここでの「善意」がどのようなものであったか、また、なぜこのような「善意」をもって接するようになるのかあなたの考えを述べなさい（600字以内）。

この課題文は著作権の関係により、掲載できません。

（伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているか』、光文社、2015年）